ベネズエラ情勢（内政・外交：令和３年９月）

１　内政

（１）　新型コロナウイルス感染症対策関連

	新規症例数	累計症例数	新規死者数	累計死者数	累計治癒数
1日	855名	336,088名	13名	4,039名	320,400名
2日	1,271名	337,359名	17名	4,056名	321,264名
3日	941名	338,300名	16名	4,072名	322,162名
4日	955名	339,255名	14名	4,086名	323,360名
5日	932名	340,187名	12名	4,098名	324,346名
6日	1,127名	341,314名	17名	4,115名	325,336名
7日	834名	342,148名	18名	4,133名	326,187名
8日	1,030名	343,178名	17名	4,150名	327,151名
9日	1,119名	344,297名	17名	4,167名	328,262名
10日	1,263名	345,560名	12名	4,179名	329,335名
11日	1,195名	346,755名	13名	4,192名	330,675名
12日	892名	347,647名	11名	4,203名	331,727名
13日	1,226名	348,873名	11名	4,214名	332,808名
14日	858名	349,731名	14名	4,228名	333,998名
15日	1,064名	350,795名	17名	4,245名	334,912名
16日	1,260名	352,055名	16名	4,261名	336,034名
17日	1,346名	353,401名	14名	4,275名	337,230名
18日	838名	354,239名	16名	4,291名	338,231名
19日	822名	355,061名	10名	4,301名	339,081名
20日	1,201名	356,262名	10名	4,311名	340,022名
21日	1,060名	357,322名	18名	4,329名	341,099名
22日	1,140名	358,462名	17名	4,346名	342,033名
23日	1,171名	359,633名	17名	4,363名	343,068名
24日	1,216名	360,849名	16名	4,379名	344,210名
25日	1,191名	362,040名	16名	4,395名	345,377名
26日	1,260名	363,300名	17名	4,412名	346,603名
27日	1,458名	364,758名	15名	4,427名	347,693名
28日	1,392名	366,150名	16名	4,443名	348,895名
29日	1,522名	367,672名	11名	4,454名	349,967名
30日	1,296名	368,968名	15名	4,469名	351,141名

（ア）　２日、ＰＡＨＯは、９月末頃、ベネズエラにシノバック製の新型コロナウイルス感染症ワクチン693,000ドースがＣＯＶＡＸを通じて到着するであろうと発表した。

（イ）　２日、ＰＡＨＯは、これまでベネズエラにおいて、9,342,817 ドースのワクチン接種が実施されており、内ワクチン接種を２回終了した者は、3,326,547 人（6,653,094 ドース）である旨発表した。

（ウ）　３日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ベネズエラはＣＯＶＡＸに対して必要な費用を全額支払ったが、ワクチンを１本も受領していないと非難した。

（エ）　５日、マドゥーロ大統領は、ＣＯＶＡＸシステムを通じた新型コロナウイルス感染症ワクチンの最初のロットが、７日の週に到着するであろうと述べた。

（オ）　５日、マドゥーロ大統領は、１０月より、「７＋７」政策の枠組みの下、対面式の授業を再開する旨述べた。

（カ）　５日、マドゥーロ大統領は、１０月までに、３歳から１８歳の子供へのワクチン接種を開始する旨述べた。

（キ）　５日、メリク・バグダサロフ駐ベネズエラ・ロシア大使は、ツイッターを通じて、２回目接種用のロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V が、ベネズエラに向けてロシアから発送された旨述べた。

（ク）　５日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌６日～１２日にかけて、全土において、外出規制強化措置を講ずる旨発表した。

（ケ）　６日、在ベネズエラ・ロシア大使館は、ツイッターを通じて、２回目接種用のロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V が、ベネズエラに到着した旨述べた。

（コ）　７日、ＰＡＨＯは、プレスリリースを通じて、同日、ベネズエラがＣＯＶＡＸを通じて受領する予定である 12,068,000 ドースの新型コロナウイルス感染症ワクチンの内最初のロットである 693,600 ドースのワクチンがベネズエラに到着した旨発表した。

（サ）　７日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、テドロスＷＨＯ事務局長及びエティエンヌＰＡＨＯ事務局長と、ベネズエラに対するＣＯＶＡＸを通じた新型コロナウイルス感染症ワクチンの供給に関し、ビデオ電話方式で会合を実施し、同会合において、テドロスＷＨＯ事務局長に対し、ベネズエラへのワクチンの到着における障害の解決に向けた支援に謝意を表明した。

（シ）　１１日、アルバラド保健大臣は、妊婦及び身体障害者は、事前予約無しで、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を受けることができる旨述べた。

（ス）　１２日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌１３日～１９日にかけて、全土において、外出規制緩和措置を講ずる旨発表した。

（セ）　１９日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌２０日～２６日にかけて、全土において、外出規制強化措置を講ずる旨発表した。

（ソ）　２０日、メリク・バグダサロフ駐ベネズエラ・ロシア大使は、ツイッターを通じて、２回目接種用のロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V が、ベネズエラに到着した旨発表した。また、Sputnik V の公式ツイッターは、２０万ドースの２回目接種用ワクチンがベネズエラに到着した旨発表。

（タ）　２１日、メリク・バグダサロフ駐ベネズエラ・ロシア大使は、ツイッターを通じて、２回目接種用のロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V が、ベネズエラに到着した旨発表した。なお、同日、Sputnik V の公式ツイッターは、６７万５千ドースの２回目接種用ワクチンがベネズエラに到着した旨発表した。

（チ）　２１日、アルバラド保健大臣は、翌２２日より、カラカス首都圏、ミランダ州、ラ・グアイラ州、アラグア州において、ロシア製新型コロナウイルス感染症ワクチン Sputnik V の２回目の接種を開始する旨発表した。

（ツ）　２３日、マドゥーロ大統領は、１０月第３週目より対面式授業を再開する予定である旨述べた。

（テ）　２３日、メリク・バグダサロフ駐ベネズエラ・ロシア大使は、ツイッターを通じて、ロシア製新型コロナウ

イルス感染症ワクチンSputnik Vが、ロシアからベネズエラに向けて送付された旨述べた。

（ト） ２６日、マドゥーロ大統領は、キューバ政府及びディアスカネル・キューバ大統領に対し、キューバ製新型コロナウイルス感染症ワクチン「アブダラ」の送付に対し、謝意を表明した。

（ナ） ２６日、マドゥーロ大統領は、「７＋７」政策として、翌２７日～１０月３日にかけて、全土において、外出規制緩和措置を講ずる旨発表した。

（ニ） ２９日、ニャニェス通信情報大臣は、キューバ製新型コロナウイルス感染症ワクチン「アブダラ」が合計１８万ドース（６万人に対し接種可能）ベネズエラに到着した旨発表した。

（ヌ） ３０日、マドゥーロ大統領は、近日中に国民の５５%がワクチン接種を終了し、１０月末までに当初の目標であった国民の７０%がワクチン接種を完了する旨述べた。

（２） 与野党間交渉

（ア） ３日、与野党は、メキシコにおいて、２回目の与野党間交渉を開始した。

（イ） ４日、ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長（体制側代表）は、同日の与野党間交渉において、ベネズエラ国民への対応に関連する部分合意に関して主に取り組んだ旨述べた。また、ヘラルド・ブライド野党側代表は、ベネズエラ国民が苦しんでいる深刻な人道的危機を緩和する合意を模索するために取り組んでいる旨述べた。

（ウ） ６日、与野党は、共同コミュニケを発出し、３日～６日、メキシコにて会合を実施し、「ガイアナ・エセキボに関するベネズエラの主権の再確認及び擁護のための合意」、及び、「ベネズエラ国民の社会的保護のための部分的合意」と称する２つの合意を達成した旨発表した。

（エ） ７日、外務省は、プレスリリースを通じて、次回与野党間交渉が２４日～２７日に実施される予定である旨発表した。

（オ） ８日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、ガイアナ・エセキボにおけるベネズエラの主権の再確認及び擁護に関する与野党間交渉における合意に祝意を表明した。

（カ） １４日、ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長は、３日～６日メキシコにおいて実施された与野党間交渉にて合意された「ベネズエラ国民の社会的保護のための部分的合意」において言及されている、「社会福祉のための国内会議（Mesa Nacional de Atención Social）」にアレックス・サーブ被告を体制側代表者の一人として参加させる旨発表するとともに、同国内会議における体制側代表者は、アレックス・サーブ被告、ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長及びヒメネス科学技術大臣で構成される旨述べた。なお、サーブ被告はカーボベルデで拘留中であり、米国へ身柄引渡される見込みとなっている。

（キ） １４日、統一プラットフォームは、コミュニケを通じて、同日ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長によって行われたアレックス・サーブ被告の与野党間交渉への参加に関する発表は、現在身柄引渡プロセスを実施している、権力分立及び民主主義を有する二国間の司法プロセスから、同被告を擁護するための体制側の戦略であり、統一プラットフォームは、メキシコにおける与野党間交渉「社会福祉のための国内会議（Mesa nacional de Atencion Social）」の主たるアジェンダから注意をそらさない旨述べた。

（ク） １７日、ホルヘ・ロドリゲス体制側国会議長は、コミュニケを通じて、与野党間交渉のMOUにおけるベネズエラ資産の救済に関するテーマを無視する野党側関係者の試みを断固として拒絶した。

（ケ） ２７日、与野党は、共同コミュニケを通じ、２５日～２７日、メキシコ・シティにて与野党間交渉を実施し、合意されたアジェンダの重要事項につき協議を開始した旨発表した。

（３） その他

（ア） １日、全国選挙評議会（CNE）は、同日までであった１１月２１日に実施予定の地方選挙に対する候補者登録期間を２４時間延長する旨発表した。さらに、２日、CNE は、候補者登録期間を４８時間延長する旨発表した。なお、４日、同候補者登録期間は終了した。

２　外交

（１）　バルキンド石油輸出機構（ＯＰＥＣ）事務局長のベネズエラ訪問

（ア）　１４日、プラセンシア外相は、ＯＰＥＣ創設６１周年の機会にベネズエラを訪問するバルキンドＯＰＥＣ事務局長をマイケティア国際空港にて歓迎した。

（イ）　１５日、エル・アイサミ経済担当副大統領兼石油大臣は、バルキンドＯＰＥＣ事務局長と、産油国が恩恵を受ける総合的政策の強化に関し、会合を実施した。

（ウ）　１５日、マドゥーロ大統領は、バルキンドＯＰＥＣ事務局長と会合を実施し、ＯＰＥＣが、人類の石油、経済及び金融の歴史において非凡な功績を残したと述べた。

（２）　マドゥーロ大統領の第６回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合参加

（ア）　１７日、マドゥーロ大統領は、第６回 CELAC 首脳会合に参加するために、メキシコに到着した。なお、デルシー・ロドリゲス副大統領及びプラセンシア外相等がマドゥーロ大統領に同伴した。

（イ）　１８日、マドゥーロ大統領は、第６回 CELAC 首脳会合に参加し、与野党間交渉におけるメキシコ政府の支持に謝意を表明するとともに、CELAC 加盟国の統合及び統一に繋がる新たな組織の強化に向けて、CELAC 事務局の設立を提案した。

（ウ）　１８日、マドゥーロ大統領は、第６回 CELAC 首脳会合において、アブド・パラグアイ大統領及びラカジェ・ポウ・ウルグアイ大統領のベネズエラの民主主義に関する指摘に対し、「我々は、対話を深く信じている。ベネズエラは、民主主義、自由、抵抗、革命、並びに、国民に対して議論する必要がある事項に関し、議論する用意がある。」と主張した。

（エ）　１８日、マドゥーロ大統領は、アルセ・ボリビア大統領と、二国間の戦略的関係のレビュー及び向上に向けた両国間の関心事項に関し、会合を実施した。

（３）　プラセンシア外相の第７６回国連総会出席のためのニューヨーク訪問

（ア）　２０日、プラセンシア外相は、チャヴシュオール・トルコ外相と、強制的且つ一方的措置に対する非難に関し、会合を実施した。

（イ）　２０日、プラセンシア外相は、マーリキー・パレスチナ外務・移民庁長官と会合を実施し、ベネズエラのパレスチナに対する団結の意を表明した。

（ウ）　２０日、プラセンシア外相は、クワペ・ボツワナ外務国際協力大臣と、二国間関係及び教育、電力、鉱業分野における協力の継続に関し、会合を実施した。

（エ）　２０日、プラセンシア外相は、デメケ・エチオピア外相と、二国間の外交関係の強化に関し、会合を実施した。

（オ）　２０日、プラセンシア外相は、エルドアン・トルコ大統領の招待に応じて、国連トルコ政府代表部の新事務所の竣工式に出席した。

（カ）　２１日、プラセンシア外相は、モラティノス国連「文明の同盟」上級代表と、多様性及び国民の統合の尊重に対するコミットメントの再確認及びベネズエラの現実に関し、会合を実施した。

（キ）　２１日、プラセンシア外相は、モンカダ・ニカラグア外相と、二国間及び多国間分野におけるワーキングアジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ク）　２１日、プラセンシア外相は、マウラー赤十字国際委員会総裁と、ワーキングアジェンダのレビューに関し、

会合を実施した。

（ケ）　２１日、プラセンシア外相は、Ushad Rao Monart 国連開発計画副総裁と、持続可能な開発目標の遵守に向けた協力関係の強化に関し、会合を実施した。

（コ）　２１日、プラセンシア外相は、フセイン・イラク外相と、歴史的な二国間関係のレビューに関し、会合を実施した。

（サ）　２１日、プラセンシア外相は、シャーヒド第７６回国連総会議長と、会合を行い、同会合において、多国間主義、国際法、国連憲章の擁護に対するベネズエラのコミットメントを再確認した。

（シ）　２１日、プラセンシア外相は、タル・サル・セネガル外相と、アフリカと南米の統合の強化並びに教育及びエネルギー分野における相互協力の強化に関し、会合を実施した。

（ス）　２２日、プラセンシア外相は、ウマロ・シソコ・エンバロ・ギニアビサウ大統領及びバルボザ・ギニアビサウ外務・国際協力・共同体大臣と、様々な分野における二国間協力の強化に関し、会合を実施した。

（セ）　２２日、プラセンシア外相は、アミール・アブドラヒアン・イラン外相と、国際場裏において、干渉主義及び強制的且つ一方的な措置に対する政治的相互支持の継続に関し、会合を実施した。

（ソ）　２２日、プラセンシア外相は、ジオフリー・オンエアマ・ナイジェリア外相とナイジェリアとベネズエラの包括的協力アジェンダに関し、会合を実施した。

（タ）　２２日、プラセンシア外相は、ブイ・タイン・ソン・ベトナム外相と、共通の協力アジェンダのレビュー及び第４回政府間委員会に関連するテーマに関し、会合を実施した。

（チ）　２３日、プラセンシア外相は、ナレディ・パンドール南アフリカ国際関係・協力相と、両国の外交関係の強化及び２０２２年に開催予定の最初の二国間合同委員会に関し、会合を実施した。

（ツ）　２３日、プラセンシア外相は、ヴラジーミル・マケイ・ベラルーシ外相と、二国間及び多国間分野における相互協力に関するテーマのレビューに関し、会合を実施した。

（テ）　２３日、プラセンシア外相は、シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール＝サーニ・カタール外相と、両国の協力関係の強化に関し、会合を実施した。

（ト）　２３日、プラセンシア外相は、マカモ・モザンビーク外相と、南米とアフリカの統合の強化の重要性及び二国間の関心事項のレビューに関し、会合を実施した。

（ナ）　２３日、プラセンシア外相は、一方的且つ強制的な措置による被害についての意識を高めることを目的とした国際的な運動「Sanctions kill」を構成する米国の社会運動活動家と、会談を実施した。

（ニ）　２３日、プラセンシア外相は、タンガラ・ガンビア外相と、二国間関係の強化に関し、会合を実施した。

（ヌ）　２３日、プラセンシア外相は、アフマド・ナーセル・アル・ムハンマド・アル・サバーハ・クウェート外相と、エネルギー分野における二国間関係の深化に関し、会合を実施した。

（ネ）　２３日、プラセンシア外相は、ファイサル・アル・ミクダード・シリア外相と、両国の団結及び兄弟愛、並びに、国連憲章を擁護するフレンズグループの強化に関し、会合を実施した。

（ノ）　２３日、プラセンシア外相は、国連憲章を擁護するフレンズグループの最初の閣僚会議を招集し、１８の加盟国が、国連憲章の尊重を支持する政治宣言を採択した。

（ハ）　２３日、プラセンシア外相は、ロドリゲス・キューバ外相と、キューバとベネズエラの兄弟愛の関係の再確認に関し、会合を実施した。

（ヒ）　２４日、プラセンシア外相は、エル＝マングーシュ・リビア暫定国民統一政府外務・国際協力大臣と、南米諸国とアラブ諸国の関係の推進に関するテーマのレビューに関し、会合を実施した。

（フ）　２４日、プラセンシア外相は、ンベラ・ンベラ・カメルーン外相と、石油、農業、教育分野における協力関係のレビュー、並びに、２０２２年に実施予定の合同委員会の諮問メカニズムの活性化に関し、会合を実施した。

（ヘ）　２４日、プラセンシア外相は、サントス・シルヴァ・ポルトガル外相と、二国間関係に関し、会合を実施した。

（ホ）　２４日、プラセンシア外相は、エブラル・メキシコ外相と、中南米の将来にとって重要な基本的事項のレビューに関し、会合を実施した。

（マ）　２４日、プラセンシア外相は、ニコラ・セラコビッチ・セルビア外相と、二国間及び多国間分野におけるアジェンダのレビューに関し、会合を実施した。

（ミ）　２４日、プラセンシア外相は、ナンディー＝ンダイトワ・ナミビア副首相兼国際関係・協力相と、国連憲章の擁護の強化の再確認に関し、会合を実施した。

（ム）　２４日、プラセンシア外相は、ラムタン・ラムマラ・アルジェリア外相と会合を実施し、同アルジェリア外相に対し、国連憲章を擁護するフレンズグループの支持に謝意を表明した。

（メ）　２４日､プラセンシア外相は､アントニオ･アンゴラ外相と二国間関係の強化及び多国間主義の推進に関し、会合を実施した。

（モ）　２５日､プラセンシア外相は､バルセナ国連ラテンアメリカ･カリブ経済委員会（ＥＣＬＡＣ）事務局長と、ベネズエラとＥＣＬＡＣの協力関係の強化に関し、会合を実施した。

（ヤ）　２５日、プラセンシア外相は、ジェイフン・バイラモフ・アゼルバイジャン外相と、非同盟運動の６０周年に関し、会合を実施した。

（ユ）　２５日、プラセンシア外相は、スブラマニヤム・ジャイシャンカル・インド外相と、二国間関係及び多国間分野における協力に関するテーマに関し、会合を実施した。

（ヨ）　２５日、プラセンシア外相は、レベッカ・ニャンデン南スーダン副大統領と、外交関係の強化に関し、会合を実施した。

（ラ）　２５日、プラセンシア外相は、ミッチェル・バハマ外相と、中南米の統合の強化に向けたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）の重要性に関し、会合を実施した。

（リ）　２５日、プラセンシア外相は、レイチェル・アウォル・オマモ・ケニア外務長官と、二国間関係の強化及び深化に関し、会合を実施した。

（ル）　２５日、プラセンシア外相は、ラブロフ・ロシア外相に対し、同ロシア外相の演説後の機会を捉え、マドゥーロ大統領からプーチン・ロシア大統領への挨拶を伝達した。

（レ）　２５日、プラセンシア外相は、カネム国連人口基金事務局長と、様々な共通の関心事項のレビューに関し、会合を実施した。

（ロ）　２７日、プラセンシア外相は、グテーレス国連事務総長と会合を実施し、同会合において、国連との協力深化に向けたベネズエラの意志を再確認した。

（ワ）　２７日、プラセンシア外相は、王毅・中国国務委員兼外交部長と、強制的措置、両国の内政への他国の干渉、及び、一国主義の傾向に対する相互の拒絶を再確認に関し、電話会談を実施した。

（２）　その他

（ア）　１日、プラセンシア外相は、アブドラヒアン・イラン外相と、二国間関係の強化及び拡大のコミットメン

トの再確認に関し、電話会談を実施した。

（イ） １日、プラセンシア外相は、Al Fetais 駐ベネズエラ・カタール大使と会合を実施し、同会合において、二国間協力関係の強化の再確認をするとともに、同カタール大使は、アール・サーニ・カタール首長によるベネズエラにおける豪雨の被害者に対する団結の意を表明する書簡をプラセンシア外相に手交した。

（ウ） １日、プラセンシア外相は、ランポジャ新国連ベネズエラ常駐調整官と、ベネズエラと国連機関の協力アジェンダのレビュー等に関し、会合を実施した。

（エ） １日、プラセンシア外相は、中南米諸国に駐在しているベネズエラ大使と、中南米の団結の強化に関し、ビデオ電話方式にて会合を実施した。

（オ） ２日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、ベトナムの独立７６周年に対し、祝意を表明した。

（カ） ２日、プラセンシア外相は、Nkosi 駐ベネズエラ・南アフリカ大使と会合を実施し、同会合において、二国間協力のアジェンダのレビュー、並びに、地政学的観点に関する対話を実施した。

（キ） ２日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）の各国コーディネーター会議に参加し、キューバに対する米国による経済的、商業的及び財政的封鎖の終了の必要性に対する地域プラットフォームに関する特別宣言へのベネズエラの支持を表明した。

（ク） ３日、プラセンシア外相は、Li 駐ベネズエラ中国大使と会合を実施し、同会合において、Li 大使は、豪雨及び洪水の被害を受けたベネズエラ国民に対し、中国赤十字を通じて物資の寄贈を行う旨発表した。

（ケ） ３日、プラセンシア外相は、Soltani 駐ベネズエラ・イラン大使と、二国間協力関係の強化に関し、会合を実施した。

（コ） ３日、プラセンシア外相は、カンポス駐ベネズエラ・スペイン臨時代理大使と、様々な分野における二国間関係に関し、会合を実施した。

（サ） ３日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、インドネシアの独立７６周年式典に参加した。

（シ） ４日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ラミレス・コロンビア外相による与野党間交渉に関する宣言を拒絶する旨述べた。

（ス） ６日、プラセンシア外相は、Singh 駐ベネズエラ・インド大使と、二国間の外交、経済及び文化関係の強化に関し、会合を実施した。

（セ） ６日、プラセンシア外相は、ビスカイノ駐ベネズエラ・メキシコ臨時代理大使と、二国間関係の強化に関し、会合を実施した。

（ソ） ８日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、Duyen 駐ベネズエラ・ベトナム大使と、二国間の経済協力関係の強化に関し、会合を実施した。

（タ） ７日、マドゥーロ大統領は、外務省声明を通じて、ベネズエラ政府及び国民の名の下、ユダヤ暦の新年祭である「ロシュ・ハシャナ」に祝意を表明した。

（チ） ８日、プラセンシア外相は、オヨノ赤道ギニア外相と、二国間の協力関係のレビューに関し、電話会談を実施した。

（ツ） ８日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、Duyen 駐ベネズエラ・ベトナム大使と、兄弟愛の関係の再確認に関し、会合を実施した。

（テ） ８日、シルバ貿易・投資促進担当経済財務次官は、Majola 南アフリカ貿易産業担当次官と二国間貿易の促進に関し、電話会談を実施した。

（ト）　９日、マドゥーロ大統領は、ランポジャ新国連ベネズエラ常駐調整官と会合を実施した。

（ナ）　９日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、Xiaomei 中国外務省人権問題特別代表と、国連人権理事会のアジェンダに関するテーマのレビューに関し、テレビ電話方式で会合を実施した。

（ニ）　９日、ピメンテル・アフリカ担当外務次官は、traore マリ大使（ブラジル在住）と、二国間関係及び多国間問題における相互協力のレビューに関し、会合を実施した。

（ヌ）　９日、ヒル欧州担当外務次官は、ドチャオ新駐ベネズエラＥＵ臨時代理大使と、ＥＵとベネズエラの関係のレビューに関し、会合を実施した。

（ネ）　１０日、メネンデス企画担当副大統領及びプラセンシア外相は、ランポジャ新国連ベネズエラ常駐調整官と、２０２１年国連食糧システムサミットに向けた協力の評価に関し、会合を実施した。

（ノ）　１０日、ロドリゲス多国間問題担当外務次官は、第６回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（Celac）首脳会合に向けた Celac 特別会合に参加した。

（ハ）　１０日、マドゥーロ大統領は、モラレス元ボリビア大統領と会合を実施した。

（ヒ）　１１日、プラセンシア外相は、ツイッターを通じて、同日、アラウカ県（コロンビア）において発生した襲撃にベネズエラが関与したとするドゥケ・コロンビア大統領の非難に対する拒絶を表明した。

（フ）　１２日、プラセンシア外相は、ドチャオ新駐ベネズエラＥＵ臨時代理大使と、国際法の尊重及び相互協力に基づく、ＥＵとベネズエラの関係向上の必要性に関し、会合を実施した。

（ヘ）　１３日、外務省は、声明を通じて、９日、国連人権高等弁務官事務所によって発表された、ベネズエラにおける経済的、社会的及び文化的権利の状況、並びに、ベネズエラと同事務所の協力関係に関する報告書に留意する旨表明した。

（ホ）　１４日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、ニカラグアのサンジャシントの戦い１６５周年に祝意を表明した。

（マ）　１５日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、同日に発表された主要な麻薬密輸または違法麻薬生産国に関する米国大統領決定のメモランダムに対する断固とした拒絶を表明した。

（ミ）　１５日、プラセンシア外相は、第４８回国連人権理事会において、ドゥハン国連「一方的強制措置」特別報告者によって発表された報告書の結論を評価した。

（ム）　１５日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、Singh 駐ベネズエラ・インド大使の招待に応じ、インド経済技術協力プログラムの日を祝う式典に参加した。

（メ）　１５日、プラセンシア外相は、オンエアマ・ナイジェリア外相と、二国間協力の総合的アジェンダの強化の必要性に関し、電話会談を実施した。

（モ）　１５日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、エルウィン・ミヤサカ日ベネズエラ商工会議所会長と、ベネズエラにおける日本の投資の可能性等に関し、会合を実施した。

（ヤ）　１６日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、メキシコ政府及びメキシコ国民に対して、独立記念日の祝意を表明した。

（ユ）　１６日、マドゥーロ大統領は、ビーズリー国連世界食糧計画（WFP）事務局長と、食糧安全保障における協力強化に関し、会合を実施した。なお、マドゥーロ大統領は、ツイッターにおいて、４月に WFP とベネズエラが締結した MOU の成功について強調した。

（ヨ）　１６日、ロドリゲス・アジア・中東・オセアニア担当外務次官は、マレーシア・ナショナルデーのイベントに参加し、二国間協力関係の強化に対するベネズエラ政府の関心を強調した。

（ラ）　１７日、マドゥーロ大統領は、外務省声明を通じて、ベネズエラ国民及び政府の名の下、ブーテフリカ・アルジェリア前大統領の死に深い追悼の意を表明した。

（リ）　１８日、マドゥーロ大統領は、外務省声明を通じて、ベネズエラ国民及び政府の名の下、１６日、バハマにおいて開催された選挙の成功、並びに、同選挙における進歩自由党の勝利に祝意を表明した。

（ル）　２２日、マドゥーロ大統領は、第７６回国連総会一般討論演説（事前録画）を実施した。

（レ）　２４日、タジェリア食糧大臣は、国連食糧システムサミットに参加し、ベネズエラが食糧システムの変革に取り組んでいる旨強調した。

（ロ）　２４日、ピメンテル・アフリカ担当外務大臣は、第７６回国連総会の機会に、シェリフ・マハマット・ゼネ・チャド外務・アフリカ統合・ディアスポラ大臣と、可能な全ての分野における協力の具体化に向けた政治的諮問システムの構築の必要性に関し、会合を実施した。

（ワ）　２４日、エル・アイサミ経済担当副大統領は、国連エネルギー・ハイレベル対話に参加し、エネルギーへのアクセスの包括的な政策に関するベネズエラのコミットメントを表明した。

（ヲ）　２７日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、チリにおける排他主義的集団によるベネズエラ国民への攻撃に対し、同ベネズエラ国民のベネズエラへの帰国に向けて祖国計画（Plan Patria）を開始する旨発表した。

（ン）　２８日、プラセンシア外相は、核兵器の全面的廃絶の国際の日に関する国連総会会合に出席し、ベネズエラ政府の核兵器の全面的廃絶を支持する姿勢を強調した。

（ア）　２８日、ベネズエラ政府は、外務省声明を通じて、メキシコの独立宣言の署名２００周年に祝意を表明した。

（イ）　２９日、全国選挙評議会（ＣＮＥ）は、ＥＵと、１１月２１日に実施予定の地方選挙に向けた選挙監視団に関する行政協定を締結した。

（ウ）　２９日、エル・アイサミ経済担当副大統領兼石油大臣は、グアイド側関係者によるCitgo社及びMonomeros社の資産の略奪及び強奪を非難した。

（エ）　３０日、体制側国会は、ガイアナ・エセキボを含んだベネズエラの地図の正しい利用を求めることを全会一致で決定した。

（了）